

一般社団法人日本地質学会2013年度総会記事

2013年度総会議事録

以下のとおり、2013年度定時社員総会を開催した。

日時 2013年5月18日(土) 12:30-14:05
会場 北とびあ 第2研修室(東京都北区王子1-1)

総会開始にあたり、議長・副議長、書記として本日出席代議員から以下の方々を選出した。

議長：大友幸子、副議長：西岡芳晴、書記：針金由美子・細井 淳

議長は本日の出席者数を確認し、総会定足数 67名をこえる出席者があるので成立している旨宣言し、議事に入った。

代議員(=社員)総数 133名

議決権総数 133個

出席者数(委任状、議決権行使者含む)

105名 この議決権総数 105個

出席役員 代表理事(会長)：石渡 明
理事：ウォリス サイモン(副会長)

渡部芳夫(副会長) 天野一男 安藤

寿男 市川八州夫 井龍康文 永広昌

之 小山内康人 笠間友博 狩野彰宏

川端清司 川辺文久 清川昌一 斎藤

眞 坂口有人 佐々木和彦 柴 正博

高木秀雄 高橋正樹 竹内 誠 田村

嘉之 内藤一樹 中澤 努 西 弘嗣

久田健一郎 平田大二 星 博幸 松

田達生 松田博貴 向山 栄 山田泰

広 山本高司

監事：青野道夫 以上

理事33名、監事1名

1号議案 2012年度事業報告

齋藤常務理事から資料にもつき2012年度の事業報告があり、本年度の学術大会(東北大会)から巡検全般を旅行業者に委託すること、Island Arcの名称は変更しない方向で決まったことなど重要と思われることについて説明が付された。

また、2012年度内および総会開催の本日までに逝去された会員13名(うち名誉会員4名)



に対し、黙祷を捧げた。本議案についてはとくに質疑応答はなく、全会一致で本議案は承認された。

2号議案 2012年度決算報告

会計担当の西理事から報告と説明があった。決算額は予算額より収支共に増額したこと、前年度より大きく収支が異なる内容について説明された。

続いて、青野監事より、2011年度の会計については、適切に処理されていることを確認した旨の会計監査報告があった。本議案についての質疑応答は以下のようであった。

2012年度の決算額がわずかにマイナスになっていることについて質問があり、現状では誤差の範囲と見なしており、会計上は問題ないとの説明がなされた。出版費に関する質問(予算超過)に対して、地質学雑誌の震災関係特集号印刷のためであることが説明された。また、資産管理のリスク分散について質問があり、今後検討を要するとの応えがあった。質疑応答の後、全会一致で本議案は承認された。

3号議案 選挙規則の改正

齋藤常務理事より、選挙規則の改正についての概要および、それに伴う選挙細則の改正点について説明された。本議案については全会一致で承認された。

4号議案 2013年度事業計画

齋藤常務理事より、2012年度の本学会の事業成果について説明があり、それらを踏まえた2013年度の事業計画の方針が示された。本議案について特に質疑応答はなく、本議案は全会一致で承認された。

5号議案 2013年度予算案

西理事より2013年度の予算案について説明された。この内、総目録刊行引当金について、既に目録の刊行は行わないことが決まっていることから、同引当金を「125周年記念事業引当金」とする名目変更が提案された。名目変更が承認された場合は、予算案の収入科目「総目録刊行引当金繰入収入」を「125周年記念事業引当金繰入収入」とする。



質疑応答ではバックナンバーの売上について在庫管理と経理上の扱いについて質問があり、会計委員の佐々木理事より毎年在庫分は計上しておらず、売れた分だけ収入として計上しているとの説明があった。引当金の名目変更を含む予算案についての本議案は、全会一致で承認された。

以上をもって審議を終了し、議長は閉会を宣言した。

2013年5月18日

以上、決議を明確にするためこの議事録を作成し、議長、副議長および出席理事がこれに記名、押印する。

一般社団法人日本地質学会2013年度総会

総会議長 大友幸子

総会副議長 西岡芳晴

代表理事 石渡 明

理 事 齋藤 眞

選挙規則の改正およびそれに伴う選挙細則の改正

【改正の概要】

- ・地方支部区選出理事は、各地方支部区選出の代議員で理事に立候補した者のうちから各支部の代議員の投票で決める。
- ・地方支部区選出理事は、理事のいない支部をなくすという趣旨で、各1名のままとする。
- ・選挙規則5条3項・4項、6条1項・2項の改正、新7条の追加、現7条は繰り下げ8条とする。選挙細則13条の改正。

《選挙規則現行》

(役員選挙)

第5条3 理事の定員のうち、各代議員地方支部区から、代議員選挙得票数上位1名を地方支部区選出理事とする。

第5条4 理事候補者はその年度に選出された全国区代議員とし、候補者は別途定める選挙細則に則り、参考事項を記した候補者届けを所定の期日までに選挙管理委員会に届けなければならない。

(無投票選挙の指定)

第6条 代議員の選挙にあたり、立候補者数が定数を超えない場合でも選挙を実施し、投票は行うものとする。

2 役員選挙にあたり、立候補者数が定数を超えない場合には無投票当選とする。

(選挙実施細目)

第7条 定款ならびに本規則に定められたもの以外の、選挙の実施手続き等において

は別途定める選挙細則および選挙管理委員会規則によるものとする。

【選挙規則改正】

(役員選挙)

第5条3 理事50名の選出は、各地方支部区代議員の中からそれぞれ1名を支部区代表理事として選出し、それらを除く数を全国区代議員から選出する。

第5条4 理事立候補者は別途定める選挙細則に則り、参考事項を記した立候補届けを所定の期日までに選挙管理委員会に届けなければならない。

(無投票選挙の指定)

第6条 代議員および役員選挙において、立候補者数が定数を超えない場合には、無投票当選とする。

(得票数同数の取り扱い)

第7条 代議員および役員選挙において、得票数が同数で順位をつける必要がある場合は、くじ引きにより順位を決める。くじ引きの方法は、当該の選挙管理委員会が定めるものとする。

(選挙実施細目)

第8条 定款ならびに本規則に定められたものの以外の・・・以下略

【選挙細則現行】

(理事の立候補届)

13条 理事の選挙は、理事の定数50名から選挙規則第5条第3項に定める地方支部選出理事を除いた数を、全国区の代議員から選出するものとする。

【選挙細則改正】

(理事の立候補届)

13条 理事選挙は、地方支部区選出理事の場合、被選挙人は当該支部区選出代議員の立候補者とし、選挙人は当該支部区選出の代議員とする。全国区理事の被選挙人は全国区選出代議員の立候補者とし、選挙人は、地方支部区ならびに全国区選出の全代議員とする。

以上

2012年度事業経過報告

※本報告の氏名の敬称は省略しています。

1. 報告事項

1) 会員の動静

2013年4月末現在の会員は、賛助会員26社、名誉会員69名、正会員3781名(うち院生割引98名、学部割引1名)、会員総数3876名、2012年4月末と比べて108名の減少であり、その内訳は次のとおりである。

入会者 135(賛助 1社、正会員 134名〔うち院生割引 89名、学部割引 8名〕)
退会者 134(賛助 1社、正会員 133名〔うち院生割引 12名、学部割引 0名〕)
除籍者 97(正会員 97名)

逝去者 12(名誉会員 4名、正会員 8名)
名誉会員:橋本光男(2012/8/16),
飯山敏道(9/15),森本良平
(11/19),増田孝一郎(2013/1/8)
正会員:有田忠雄(2008/11/25),黄
敦友(2010/12/8),熊崎憲次
(2012/5/2),福田登志郎(5/4),
河野通弘(9/11),遠藤秀正
(11/29),三谷 豊(12/5),樽
良平(2013/2/27)

2) 学会運営に関する諸集会及び委員会等の活動

<2012年度定時総会>

日時:2012年5月19日 14:30~16:00

会場:北とびあ 第2研修室

議決権のある社員総数 125名(定足数:63名),議決権の数 125個

出席社員数(委任状および議決権行使書提出者を含む)89名,
議決権の総数 89個,出席理事 32名,出席監事 2名

審議事項:1)2011年度理事会報告,2)2011年度事業・決算報告,3)定款改正,4)役員辞任,5)代議員および理事・監事選挙報告,6)2012年度事業計画,7)2012年度予算案,8)名誉会員の選出
いずれの議案も承認された。

<委員会等の開催>

・執行理事会(11回)議事内容,報告等については,随時HP,ニュース誌に掲載
・理事会(4回)議事内容,報告等については,随時HP,ニュース誌に掲載
・その他委員会(メールによる会議を含め,随時開催)

3) 学会の行事・事業

1. 日本地質学会第119年学術大会

会期:2012年9月15日~17日

会場:大阪府立大学

参加者:852名(会員713名,非会員139名)
・一般発表:532件(口頭312件,ポスター220件)

・公開シンポジウム:2件(15講演)

・国際ワークショップ:10件(口頭8件,ポスター2件)

・アウトリーチセッション:ポスター11件
・優秀ポスター賞の授与:8件(ポスター発表のみ)

・見学旅行:実施9コース(悪天候のため1コース中止)

・ランチョン:専門部会を中心に8件

・夜間小集会:9件

・就職支援プログラム:2012年9月16日
参加企業・団体:8社

<日本地質学会各賞の授与式・記念講演会>

日時:9月15日(土),会場:大阪府立大学中百舌鳥キャンパスUホール白鷺

・来賓挨拶 兪 剛氏(大韓地質学会会長),奥野武俊(大阪府立大学学長)

一般社団法人日本地質学会2013年度総会

・日本地質学会小澤儀明賞受賞スピーチ
山本伸次(東京大学)

「とことんやってみる-変態科学と私-」

・日本地質学会賞受賞記念講演 木村 学
(東京大学)

「地質学の自然観」

<年会関連行事>

・地質情報展2012おおさかー過去から学ぼう
大地のしくみー 2012年9月15日~17日.
参加者:4681名

・市民講演会「地震・津波・地盤災害~知ること,伝えること~」2012年9月16日.参加者:270名.講師:金田義行,飯尾能久,三田村宗樹

・震災復興・復興プラン(2011年度公募)ポスター発表会:2012年9月15日~17日.展示ポスター6件(各日,2件ずつ掲示)

・地学教育委員会

小さなEarth Scientistのつどい~第10回
小・中・高校生徒地学研究発表会:2012年9月16日,参加校13校,16件,優秀賞4件,奨励賞3件を授与.

理科・地学教科書展示解説(ポスター会場にて展示)

第11回理科教員対象見学旅行:2012年9月17日,「J班:大阪の津波碑と地盤沈下対策」案内者:三田村宗樹

2. 地質の日 本部イベント

・街中ジオ散歩in Tokyo「身近な地層や岩石を知らう」徒歩見学会:2012年5月13日,参加者32名.共催:一般社団法人日本応用地質学会,見学コース:東京都千代田区界限(丸の内,日比谷,三宅坂,永田町,一番町),案内者:中山俊雄,奥村興平

・第3回惑星地球フォトコンテストの講評・表彰式:2012年5月19日,北とびあ,講師:白尾元理

・惑星地球フォトコンテスト入賞作品展示
第2回(2011年)入賞作品展示:4月28日~5月13日,共催:東海大学自然史博物館

第3回(2012年)入賞作品展示:4月21日~6月3日,共催:千葉県立中央博物館

3. 地質の調査研修

・研修地域「千葉県君津市と房総半島中部域」:2012年10月29日~11月2日,参加者6名,後援:産業技術総合研究所地質調査総合センター,協力:日本地質学会関東支部.講師:徳橋秀一,中島 礼(産業技術総合研究所).

4) 出版物の刊行

<地質学雑誌>

・118巻4号(2012年4月)~119巻3号(2013年3月)を刊行した.総ページ数は860ページ.

・地質学雑誌補遺(8月号に同封):大阪大会見学旅行案内書CD-ROM版

<日本地質学会ニュース>

・15巻4号(2012年4月)~16巻3号(2013

年3月)を発行した。総ページ数は379ページ。

<Island Arc>

・Island Arc編集委員会の編集により、Wiley社よりVol.21, Issue 2~Issue 4, Vol.22, Issue 1を刊行した。総ページ数は436ページ。

<ジオルジュ>

・創刊号(2012年5月)、後期号(11月)を発行した。

<その他>

・フィールドジオロジーシリーズ(共立出版): 8巻「火成作用」、9巻「第四紀」、2012年9月に刊行され、シリーズは完結した。

5) 関連外部委員会への協力

下記の関連外部委員会等に対して本学会から選出された委員を通じて、これまでに引き続きそれぞれの活動、関連学会の発展と連携に協力した。

日本地球惑星科学連合: 評議員(石渡明), 連絡委員(西 弘嗣), プログラム委員(大坪誠, 星 博幸), キャリアパス支援小委員会委員(佐々木和彦), 環境・災害対応委員会-災害の委員(横山俊治), 環境・災害対応委員会-環境の委員(小荒井衛), 学術出版委員会委員(井龍康文), 教育問題検討委員会(矢島道子, 芝川明義, 中井睦美, 渡邊正人), 地質科学関連学協会連合(天野一男), 自然史学会連合(斎木健一), 土質・地質技術者生涯学習協議会(CPD, 吉田孝紀), 日本技術者教育認定機構(JABEE, 天野一男), 地質の日事業推進委員会(委員, 中澤 努), 原子力総合シンポジウム(運営委員, 高橋正樹), アイソトープ・放射線研究発表会運営委員会(運営委員, 山口耕生), 富士学会: 富士山科学看板設置調整委員会(専門委員, 高橋正樹), 日本ジオパーク委員会(委員高木秀雄), 地質図に関するJISの原案作成委員会(産総研)(学会委員, 斎藤靖二), (NPO)地学オリンピック日本委員会広報小委員会(坂口有人), 地質地盤情報活用協議会(委員, 小嶋 智)など。

6) その他報告事項(主に他学協会との共催・後援, 協賛行事など, そのほかはNews誌, HPに掲載の執理事務会議事録, 理事会議事録参照)

<他学協会などからの依頼>

・朝永振一郎記念第7回「科学の芽」賞(筑波大学)の後援。
・三浦半島活断層調査会, 地質の日記念観察会「深海から生まれた城ヶ島」(2012年5/12日)の後援。
・近畿地方環境事務所, 第5回地質の日フィールドワーク「熊野のジオサイト 潮岬のジオ散歩」の後援。
・「地質情報展2012おおさか」: 産業技術総合研究所, 大阪市立自然史博物館との共催。
・日本科学技術財団, 青少年のための科学の祭典2012(2012年5/12-2013年3/31日)

への協賛。

・岡山理科大学地球惑星環境研究センター(担当応用物理学科: 豊田 新), 国際会議「3rd Asia Pacific Conference on Luminescence and Electron Spin Resonance dating: including non-dating applications of Luminescence and ESR」への協賛。
・日本原子力学会, 「原子力総合シンポジウム2012」の共催。
・国際火山学地球内部化学協会2013年学術総会「IAVCEI2013 Scientific Assembly」(2013年7月, 鹿児島)の後援。
・第28回ゼオライト研究発表会(2012年11/29-30日)への協賛。
・日本第四紀学会2012年大会テーマセッション「テフラ・年代測定」(2012年8/20-21日, 立正大)の共催。
・日本地球化学会, 2012年度年会(2012年9/11-13日, 九州大学)の共催。
・新潟大学学術情報基盤機構旭町学術資料展示館企画展示「佐渡の海洋生物展」(2012/7/14-8/31)の後援。
・埼玉県高等学校理化研究会野外巡検研修会「宮城県仙台市周辺」(2012年8/9-10日)の後援。
・第10回高校生科学技術チャレンジJSEC2012の後援(2012年4/1-2013年3/31日)。
・科学教育研究協議会, 第59回全国研究大会(2012年8/3-5日, 鳥取県米子市)の後援。
・蒲郡市生命の海科学館, 地質学会の惑星地球フォトコンテスト入賞作品展開催の共催(2012年9/29-11/4日)。第1回~3回までの入賞作品の貸出し依頼も承諾。
・第38回リモートセンシングシンポジウム(2012年11/2日)への協賛。
・第6回地殻応力国際シンポジウム, RS2013の後援。
・「津波堆積物ワークショップ」堆積学会と共催(2012年10/6-8日, 三重, 和歌山地域)。
・土壌環境センター, 日刊工業新聞より, 2012土壌・地下水環境展(2012年10/17-19日)への協賛。
・第3回日本ジオパーク室戸大会組織委員会(2012年11/2-11/5日)の後援。
・ひょうご恐竜化石国際シンポジウム実行委員会, 国際シンポジウム「白亜紀前期の恐竜研究最前線」ほか関連行事(2013年3月16日-17日)の後援。
・21世紀の地学教育を考えるフォーラム実行委員会, 第13回子供のためのジオカーニバル(2012年11/13-14日, 大阪市立科学館)の後援。
・三浦半島活断層調査会(会長: 茅野孝幸), 第2回城ヶ島観察会「深海から生まれた城ヶ島」(2012年11/4日)の後援。
・アイソトープ協会, 「第50回アイソトープ研究発表会」(2013年7月開催予定)の共催。
・日本堆積学会, 台湾地質学会主催, 「Western Pacific Sedimentology Meeting」[2013年西太平洋堆積学会議(2013

WPSM)](2013年5/13-14日, Longtan Aspire Resort, Taoyuan, northern Taiwan)の共催。

・地質汚染-医療地質-社会地質学会主催「第22回環境地質学シンポジウム」(2012年12/7-8日, 産業技術総合研究所共用講堂)に対し, 環境地質部会が共催。
・日本学術会議主催, 学術フォーラム「自然災害国際ネットワークの構築にむけて: 固体地球科学と市民との対話」(2013年2/1日, 日本学術会議講堂)の後援。
・「変成岩などシンポジウム」(世話人: 竹下徹, 2013年3/15-17日, 北海道定山溪温泉ホテル鹿の湯)に対し, 岩石部会が後援。
・「2012年度古海洋学シンポジウム」(世話人: 西 弘嗣・高嶋礼詩, 2013年1/7日, 東大気海洋研究所)に対し, 環境変動史部会が後援。
・光記念館企画展「飛騨地方の火山」展(2013年2/27-12/10日)の後援。
・東北大学災害科学国際研究所主催「International Workshop on the 2011 Tohoku-oki tsunami deposits」(2013年3/18日)の共催(津波ワークショップ第3回の位置づけ)。
・東京大学地震研究所主催「立川断層メガトレンチ」一般見学会(2013年2/8-9日)に対し, 関東支部が後援。
・G-EVER国際シンポジウム(2013年10/19-21日, 仙台)の共催。
・海洋研究開発機構「ちきゅう」10年計画国際ワークショップ-CHIKYU+10 International Workshop-(2013年4/21-23日)の後援。
<他学協会などへ依頼>
・第120年学術大会(2013年9/14-17開催予定)について, 東北大学災害科学国際研究所, 理学研究科, 東北アジア研究センター, 学術資源研究公開センターあて共催を依頼し承諾された。
・「2013年度春季地質の調査研修」(2013年5/27-31日実施予定, 講師: 徳橋秀一・辻野 匠(産総研))について, 産業技術総合研究所あて共催を依頼し承諾された。

7) 支部の活動

<北海道支部>

1. 2012年度「地質の日」記念展示(2012年4月24日~5月27日)
・北海道大学総合博物館企画展示「私たちの生活を支える金属鉱床-札幌周辺の鉱山を例に」。北海道大学総合博物館・日本地質学会北海道支部・(地独)北海道立総合研究機構地質研究所・(独)産総研地質調査総合センター・札幌市博物館活動センター・北海道地質調査業協会との共催, 豊羽鉱山株式会社・地図と鉱石の山の手博物館・札幌市立手稲西小学校などの協力。
・定山溪温泉・豊羽鉱山周辺の地質巡検(4月30日), 豊羽鉱山株式会社 協力。

参加者45名。

- ・土曜市民セミナー：「私たちの生活を支える金属資源：マグマからの贈り物」(5月12日)，講師：渡辺 寧 (産総研)，北海道大学総合博物館。

2. 北海道支部総会・招待講演会 (2013年2月16日) 於北海道大学理学部

- ・総会 (14:30-15:30) 出席者24名，委任状6名，計30名

- ・招待講演会：「北海道白亜系研究の最前線」(16:00-18:00)，講演者：安藤寿男 (茨城大学理学部)，中村英人 (北海道大学理学部)，参加者38名。

※支部総会と支部例会 (個人講演会) を分けて開催。支部例会は2013年4月27日に開催。

3. 北海道地質百選検討

- ・ウェブ運用：公開済みジオサイト数は387カ所 (2013年2月1日現在) に達した。豊平川，札幌西方の山々，積丹，礼文島，支笏カルデラの5ヶ所のオンライン北海道ジオパーク (OHG) を公開中。
- ・「北海道地質百選 (仮称)」の出版：2012年8月に北大出版会と打ち合わせを行い，2014年出版を目指して準備。「北海道地質百選 (仮称)」出版編集委員会を立ち上げた。

4. ジオパーク支援活動

- ・洞爺湖有珠山をはじめ，道内ジオパークからの要望へ対応 (技術的部分，再審査対応，ユネスコイニシアティブ化に向けた準備)。
- ・三笠など2013年度に日本ジオパークネットワーク (JGN) 加盟申請を予定している地域への情報提供とアドバイス。

<東北支部>

1. 東北支部活動報告
2. 東北支部幹事県は福島大学から山形大学に移行した。
3. 2013年9月の仙台大会に向けて，東北大学を中心に，東北支部メンバーも加わって準備を開始。
4. 2013年度末に総会，個人講演会を山形で開催することとした。

<関東支部>

1. 地質技術伝承講演会 (4月8日，会場：北とびあ)
「地形情報から見た地質の理解」(講師：古谷尊彦，(株)日さく顧問) 共催：関東地質調査業協会 参加者：71名
2. 地質見学会
 - ・銚子巡検 (10月27日，28日) 参加者：25名，案内者：高橋雅紀 (産総研)，鈴木毅彦 (首都大)
 - ・第一回ミニ巡検 御坂・櫛形山地黒鉦 (10月6日，7日) 参加者：9名，案内者：浦辺徹郎 (東大)
 - ・第二回ミニ巡検 ハツ場ダム (12月1日，2日) 参加者：8名，案内者：中村庄八
 - ・立川断層トレンチ見学会 (1月26日) 参加者：34名，案内者：石山達也 (東大地

震研)

3. シンポジウム

- 第一回地質研究サミット 房総三浦地質研究サミット (3月9日，10日) 参加者：211名

共催：千葉県立中央博物館，協力：横須賀市立自然史博物館

4. 支部活動

- ・支部総会 (4月13日，会場：北とびあ)：活動報告，会計報告，活動計画，予算案
- ・支部功労賞授与 (1団体・3個人)：下仁田自然学校，加瀬靖之，神戸信和，松島義章
- ・幹事会：10回開催 (1回/月程度)
- ・2016年大会会場
- ・フィールド教育見学：東大・千葉大清水澄実習 (8月31日)，地質調査研修会 (10月30日，31日)
- ・立川断層トレンチ一般公開支援 (2月8日，9日)
- ・新規事業の模索：首都高速大橋ジャンクション視察 (9月4日)，那須野が原博物館視察 (1月29日)

<中部支部>

1. 地質の日イベント (6月3日，地質の日サイエンスファスティバル in 五十嵐キャンパス，新潟大学)
2. 中部支部総会 (6月16日，岐阜大学，参加者17名，委任状45名)
3. シンポジウム「中部地方の活断層に関わる最新の知見」(6月16日，岐阜大学，参加者38名)
4. 個人講演 (ポスター) (6月16日，岐阜大学)
5. 地質見学会「根尾谷断層にかかわる新知見」(6月17日，案内者：金田平太郎，大谷具幸，小井戸由光，参加者20名)

<近畿支部>

1. 2012年度支部体制
支部長：宮田隆夫 (神戸大学)，代表幹事：奥平敬元 (大阪市大)，行事：小林文夫 (兵庫県立人と自然の博物館)，会計：大串健一 (神戸大学)，庶務：竹村静夫 (兵庫教育大学)，幹事：里口保文 (滋賀県立博物館)，和田稯隆 (奈良教育大学)，田中里志 (京都教育大学)，三田村宗樹 (大阪市大)，此松昌彦 (和歌山大学)

2. 行事報告

- ・地質の日イベント
第29回地球科学講演会「恐竜研究の最前線」(2012年5月13日 (日)，場所大阪市立自然史博物館講堂，講師：柴田正輝 (福井県立恐竜博物館研究員))，主催：地球団体研究会大阪支部，日本地質学会近畿支部，大阪府立自然史博物館
- ・日本地質学会第119年学術大会 (2012年9月15日 (土)～17日 (月))，大阪府立大学中百舌鳥キャンパス) および巡検 (9月14日 (金)，9月17日 (月)～19日 (水))

<四国支部>

1. 2012年度支部体制

支部長：臼井 朗，幹事：榊原正幸 (事務局長)，村田明広，西山賢一，寺林 優，近藤康生，奈良正和，佐野 栄

2. 行事報告

- ・後援：讃岐ジオパークをめざすシンポジウム (2012年3月3日 (土))，場所：高松テルサ大会議室
- ・第12回日本地質学会四国支部総会・講演会 (2012年12月15日 (土))，場所：愛媛大学理学部講義棟1階S11講義室，講演件数：口頭発表13件，ポスター発表11件

<西日本支部>

1. 2012年度の支部体制

支部長：小林哲夫，幹事：早坂康隆・Hafiz ur Rehman・磯部博志・酒井哲弥・永尾隆志・石原与四郎・清川昌一・太田泰弘・木戸道男・福田泰英・宮本知治 (事務局・庶務)，監事：中野伸彦

2. 行事報告

- ・第163回西日本支部例会・2012年度総会
日時：平成25年2月23日 (土)，場所：鳥根大学総合理工学部 (松江キャンパス)
講演件数：口頭講演 20件，ポスター発表 4件
- ・後援行事等「2012年「地質の日」くまもと」企画，日時：平成24年5月26日 (土)

2. 執行理事会および理事会議決・承認事項

1) 理事会議長・副議長の選出。

議長：安藤寿男，副議長：松田博貴

2) 会長および副会長の選出

会長：代表理事 石渡 明
副会長 (2名)：ウォリス サイモン (名誉会員推薦委員会担当)，渡部芳夫 (支部長連絡会担当)

3) 執行理事15名の選出。その他オブザーバなど。

常務理事：斎藤 眞，副常務理事：坂口 有人

運営財政部会：部会長 西 弘嗣 (会計担当)，山本高司 (会員担当)

広報部会：部会長 内藤一樹，松田達生
学術研究部会：部会長 井龍康文 (国際担当)，星 博幸 (行事担当)

編集出版部会：部会長 山路 敦 (地質学雑誌担当)，伊藤 慎 (Island Arc 担当)，山口耕生 (企画出版担当)

社会貢献部会：部会長 高木秀雄 (ジオパーク担当)，平田大二 (生涯教育担当)，中澤 努，保柳康一 (連携事業担当)

その他 125周年事業担当：矢島道子，地学教育担当：中井均 (～2012/9月まで)，三次徳二 (2012/10月～)

4) 各賞選考委員会委員の選出。任期2年。

- ・理事の互選 (10名)：星 博幸，清川昌一，向山 栄，竹下 徹 (委員長)，村田明広，西 弘嗣，川辺文久，永広昌之，川端清司，田村嘉之，
- ・役職指定委員 (7名)：(前・現地質学雑誌編集長・副編集長) 小嶋 智，岩森 光，

山路 敦, (前・現Island Arc編集長) 井龍康文, 前川寛和, 伊藤 慎, 海野 進.

5) レギュラーセッション, トピックセッションと並ぶ, アウトリーチセッション「名称: 日本地質学会アウトリーチセッション (市民向けポスター展示会)」の新設を承認.

6) 特集号早期公開原稿の非会員著者への対応: 特集号掲載論文は, 受理後直ちに学会HP会員ページで会員に対しPDFを早期公開している. 非会員著者は会員ページにアクセスできないので, 寄稿していただいた論文のみ, 早期公開のタイミングにあわせて, PDFファイルを著者に無償提供することを了承.

7) 国際地学オリンピック委員会より, 国内大会の問題作成が委嘱され, 問題作成者は地学オリンピック支援委員会に一任した.

8) 来年度の巡検から旅行業者に委託することに関して, 最小遂行人数や経費等の詳細を行事委員会と会計にて検討することを了承.

9) 日本地球惑星科学連合の新ジャーナル発行のための編集委員会委員ならびに編集運営会議委員として, 井龍康文 (編集委員), ウォリス サイモン (運営会議委員) を推薦.

10) Island Arc誌の完全オンライン化とともに誌名の変更を了承. 来年5月の総会までに共同運営他学会との協議および規則変更手続きを進める.

11) 今年度の震災復興事業プランとして1件を採択した.
川辺孝幸ほか: 仙台平野海岸部における津波被害と液状化被害の識別

12) 地質学会謝金細則ならびに国内旅費細則の一部改正を了承.
対象を受託研究に限定していた〔日本地質学会受託研究謝金規則〕を, 他事業の謝金・旅費も対象になるよう, 規則名称および文言を一部改正.
一般社団法人日本地質学会受託研究謝金細則 → 一般社団法人日本地質学会謝金細則 に変更
一般社団法人日本地質学会受託研究国内旅費細則 → 一般社団法人日本地質学会国内旅費細則 に変更
※国内旅費細則の条文修正箇所は次の通り.
(目的) 第1条 一般社団法人日本地質学会 (以下「学会」という.) が実施する調査研究, 研修, 講演会等 (以下「業務」という.) に伴い, 当該業務の担当者および協力者が国内を旅行する場合の国内旅費の支払い基準を定めるものである.
(適用の範囲) 第3条 旅費の支払いはとくに発注者の定めるものによる場合を除き, この規定による.
(日当・宿泊費) 第5条 日当および宿泊費は, 別表-1に定める額を基準額と

して実費を支給する. ただし, 宿泊費は, 学会が業務上必要と認める場合のみ支給することができる.

13) 理事会の下に「名誉会員のあり方の検討WG (仮称)」を設置することを了承. WGメンバーを選出した. WGメンバー: ウォリス サイモン, 伊藤谷生, 佐々木和彦, 久田健一郎の各理事

14) 理事会の下に「財政及びシニア会員制度の検討WG (仮称)」を設置し, 人選は財務担当理事に一任.

15) 環境変動史部会の設立について: 学術研究部会より黒田潤一郎を部会長とする「環境変動史部会」の設立提案があり, 了承した. 2012年10月1日から活動を開始し, 2013年学術大会にてセッションを設ける.

16) 編集出版規則のC章3項では査読後の再提出期限を3ヶ月としているが, より厳密に90日することを了承.
C. 原稿の審査と採否
3. 編集委員会は投稿原稿について, 著者に修正を求めることがある. 修正を求めた原稿が90日以上たつて編集委員会に返ってきたときは新規投稿としてとりあつかう.

17) 野外調査安全指針 附記1)の文言「見学旅行」を「巡検」に改正することを了承. 附記1)学術大会, 支部等における巡検の実施についても, 当指針を援用して----(略)---

18) 大韓地質学会との学術交流協定を更新した.

19) JSTの事業区分および搭載基準の変更などにより, 一部の「口絵」, 110巻1号 (04年1月) ~118巻9号 (12年9月) が公開されていないことが判明した. 口絵も掲載論文であり, 欠損期間の口絵全てを公開することとした. 公開に必要なデータ処理費用の支出を了承.

20) 原子力規制委員会より, 原発敷地内の破碎帯調査の調査団員候補者の推薦依頼あり. 下記10名の会員を候補として推薦した. 調査団メンバーの最終決定は原子力規制委員会による.
粟田泰夫 (産総研), 石山達也 (東大地震研), 大谷具幸 (岐阜大), 岡田篤正 (立命館大), 佐藤比呂志 (東大地震研), 重松紀生 (産総研), 竹内 章 (富山大), 堤 浩之 (京大), 藤本光一郎 (学芸大), 吉岡敏和 (産総研)

21) 大学評価学位授与機構にたいし, 25年度, 26年度実施分機関別認証評価委員会専門委員候補者として, 下記の5名を推薦.
石渡 明, ウォリス サイモン, 木村学, 宮下純夫, 渡部芳夫

22) 地質の日事業推進委員会の委員に中澤努を選出.

23) IUGSと共催の津波関係国際シンポジウムの開催: 2013年10月19日CCOP総会とタイアップしたG-EVER国際シンポジウムに日本地質学会が参加, 共催することとした.

24) 2012年度名誉会員推薦委員会委員の選出: 委員長: ウォリス サイモン
・階層別委員 (4名): 大学: 竹内 誠 (名大), 官公庁: 栗本史雄 (産総研), 小中高教員: 小尾 靖 (相模原青陵高), 会社: 松浦一樹 ((株) ダイヤコンサルタント)
・職責委員 (7名): 支部長: 竹下 徹, 川辺孝幸, 伊藤谷生, 原山 智, 宮田隆夫, 石田啓祐, 小林哲夫
・理事会推薦委員 (1名): 宮下純夫

25) 地方支部区理事の選出方法の検討, 選挙規則・選挙細則の改正: 地方支部区選出理事は代議員選挙地方支部区の最高得点者としていたのを, 当該地方支部区選出代議員による選挙とする. また, 得票数が同数で, 順位付けをする必要がある場合は, くじ引きにより順位を決めることとし, これを選挙規則に明示することとした. 関連する選挙規則 (第5条3・4項, 第6条1・2項, 新7条追加, 旧7条繰り下げ8条) ならびに選挙細則 (13条) の改正を承認. 【3号議案】

26) 地質学雑誌編集出版規則の規則名称変更: 「地質学雑誌編集出版規則」を「地質学雑誌投稿編集出版規則」とする. この変更に伴い, 運営規則13条 (1) 号および (3) 号, 編集委員会規則3項 (1) の同名称も修正する. ほかに同名称を用いている規則類があれば同様とすることを承認.

27) 地質学雑誌通常号掲載論文のPDF早期公開については, 特集号と同様に学会HP上 (会員のページ) で早期公開とすることを承認.

28) 2013年度総会開催日程: 2013年5月18日 (土), 北とびあにて開催することを承認.

29) 学術会議報告書「高レベル放射性廃棄物の処分について」に対する地質環境長期安定性研究委員会ほかによるコメントについて内容を審議. 会員への周知とプレスリリースをおこなった.

30) イタリア, L' Aquilaの被害地震についての裁判への声明: 会員への周知, プレスリリース, 現地研究機関へのサポートレターを送付.

31) 「福井県おおい町大島の県道法面工事における露頭保全」の要望書提出に関する審議をしたが, 提出前に保存が決定された.

32) 各賞選考委員会 (竹下委員長) は各賞選考検討委員会を設置し, 日本地質学会賞, 小澤賞・棚山賞選考の諮問をした.
・指定委員: 宮下純夫, 石渡 明, 岩森光, 木村 学, 小嶋 智, 山路 敦, 井龍康文, 前川寛和 (委員長), 伊藤 慎, 海野 進, 執行理事会の推薦者: 斎藤文紀.
・Island Arc賞については, Island Arc編集委員会に選考を諮問した.

33) 自然史連合による一般向け自然史書籍出版に関する編集委員1名の推薦要請があり, 矢島道子を推薦.

- 34) 一般財団法人自然公園財団の依頼により、専門誌「国立公園」(隔月刊, 2013年5月号)に、地質学会の国立公園リーフレットシリーズ(たんけんマップ)の紹介記事を執筆した。執筆者: 斎藤眞。
- 35) 関連学協会(16団体)に仙台大会の巡検協賛を依頼することとした。
- 36) 豊中市内、上町断層(仏念寺断層)の撓曲露頭の保全及び調査に関する元会員(廣野哲朗)からの要請に対し、学会としては対応可能な範囲で保全活動をサポートすることとした。
- 37) 日本学術会議の提言「地質地盤情報の共有化に向けて」に対し、賛同声明をHPおよびニュース誌に公開した。
- 38) 山田科学振興財団研究助成へ2件の推薦を承認。
- 39) タイ地質学会との学術交流協定を更新した。
- 40) 国際年代スケールの日本語版を学会HPに公開。
- 41) 全地連より「(仮称)地質地盤情報活用協議会」の設立参加要請があり、参画することとし、委員は中嶋智を推薦した。
- 42) 第4回フォトコンテストの審査結果: 最優秀賞1件、優秀賞3件・ジオパーク賞(*)1件、入選7件を選出した。(*)ジオパーク地域を対象とした応募が増加のため、優秀賞の枠で「ジオパーク賞」を設けることを選考委員会です承。
- 43) 仙台大会から、一部トピックセッションのレギュラーセッション化、既存レギュラーセッションの統合(学際的レギュラーセッションの新設)を承認。レギュラーセッションでも他学協会との共催や招待講演(トピックセッションと同ルールを適用すること)を認めることとした。
- 44) 2013年度地質の日イベント: 応用地質学会との合同行事、深田地質研究所共催「街

中ジオ散歩 in Tokyo—石神井川がつくる地形の移り変わりと地質」(5月12日)を実施。講師: 池田 宏。

- 45) 2012年度事業報告案を承認した。【1号議案】
- 46) 2012年度決算案を承認した。【2号議案】
- 47) 本年度は名誉会員候補者の推薦がなかったため、総会への提案はないこととなった。
- 48) 次の17名の会員を50年会員として顕彰することとした。

飯泉 滋, 宇井啓高, 蛭子貞二, 大口健志, 小河靖男, 小林治朗, 近藤 務, 戸野 聡, 平野英雄, 平野昌繁, 藤原嘉樹, 丸山孝彦, 室井 晋, 矢内桂三, 柳 哮, 吉田 勝, 米山正次

- 49) 2013年度事業計画および2013年度予算案を承認した。【4号議案, 5号議案】
- 50) 各賞選考委員会より提案された下記の各賞受賞者を承認した。(推薦文は1号議案資料2 参照)

・日本地質学会賞(2件)

井龍康文(東北大学大学院理学研究科)
対象研究テーマ: 琉球弧の第四紀石灰岩と海洋炭酸塩堆積物の堆積学的・地球化学的研究

乙藤洋一郎(神戸大学大学院理学研究科)
対象研究テーマ: 日本列島と大陸の変形を古地磁気学から探る

・日本地質学会小澤儀明賞(1件)

尾上哲治(熊本大学大学院自然科学研究科)

対象研究テーマ: 付加体の海洋性岩石を用いた地球環境変動に関する研究

・日本地質学会榊山雅則賞(1件)

岡本 敦(東北大学大学院環境科学研究科)

対象研究テーマ: 沈み込み帯における流体移動と水-岩石相互作用に関する岩石学的実験的研究

・日本地質学会 Island Arc 賞(1件)

授賞論文: Hattori Keiko, Wallis Simon, Enami Masaki and Mizukami Tomoyuki, 2010.

Subduction of mantle wedge peridotites: Evidence from the Higashi-akaishi ultramafic body in the Sanbagawa metamorphic belt. Island Arc, 19, 192-207.

・日本地質学会小藤文次郎賞(1件)

森田澄人(産業技術総合研究所)・中嶋健(同)・花村泰明(JX日鉱日石開発(株))

森田澄人・中嶋 健・花村泰明, 2011, 海底スランブ堆積層とそれに関わる脱水構造: 下北沖陸棚斜面の三次元地震探査データから。地質学雑誌, 117, 95-98.

・日本地質学会表彰(2件)

岡村 眞(高知大学総合研究センター)
表彰業績: 地震・津波研究の新分野開拓と普及教育活動

静岡県袋井市(代表者 市長 原田英之)
表彰業績: 地層保全を活かす市民公園の先駆的取り組み

51) 中期ビジョンの改定のため、坂口有人を担当とするWGの設置を承認した。

52) 125周年事業についての方針を承認し、準備委員会委員長に矢島道子を選出した。

53) 地質学雑誌編集委員会規則の改正案と編集委員選出案を承認した。

54) 支部独自の表彰を行えるよう、運営規則「第4章支部」(支部の運営)第11条に4項の追加を承認。

4支部は、支部の表彰規則を定め、当該支部区の会員・非会員の個人および団体を表彰することができる。表彰に際しては、学会本部の表彰と重複しないよう考慮する。

55) 5月18日開催の総会議案を承認。

収支計算書

〔 自 2012年 4月 1日
至 2013年 3月 31日 〕

| 科 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 差 異 | 備 考 |
|--------------|------------|------------|-----------|-----|
| (単位：円) | | | | |
| I. 事業活動収支の部 | | | | |
| 1. 事業活動収入 | | | | |
| 基本財産運用収入 | 20,000 | 7,190 | 12,810 | |
| 特定資産運用収入 | 14,000 | 6,523 | 7,477 | |
| 会費収入 | 43,970,000 | 44,740,350 | 770,350 | |
| 事業収入 | | | | |
| 出版事業収入 | 9,130,000 | 13,601,418 | 4,471,418 | |
| 年会開催事業収入 | 9,835,000 | 8,776,632 | 1,058,368 | |
| 普及事業収入 | 200,000 | 488,905 | 288,905 | |
| 支那・部会等活動事業収入 | 270,000 | 845,550 | 575,550 | |
| 受託事業収入 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 | |
| 地質調査研修事業収入 | 780,000 | 720,000 | 60,000 | |
| 事業収入計 | 21,215,000 | 24,432,505 | 3,217,505 | |
| 補助金・寄付金等収入 | 1,300,000 | 1,736,882 | 436,882 | |
| 雑収入 | 366,000 | 229,530 | 136,470 | |
| 事業活動収入計 | 66,885,000 | 71,152,980 | 4,267,980 | |
| 2. 事業活動支出 | | | | |
| 事業費支出 | | | | |
| 出版事業費 | 16,250,000 | 19,703,620 | 3,453,620 | |
| 年会開催事業費 | 9,385,000 | 9,411,541 | 26,541 | |
| 普及事業費 | 1,340,000 | 1,204,994 | 135,006 | |
| 支那・部会等活動事業費 | 1,900,000 | 1,946,811 | 46,811 | |
| 研究奨励事業費 | 550,000 | 456,240 | 93,760 | |
| 特別事業費 | 1,000,000 | 299,950 | 700,050 | |
| 受託事業費 | 710,000 | 0 | 710,000 | |
| 地質調査研修事業支出 | 670,000 | 507,335 | 162,665 | |
| 事業管理費 | 22,434,000 | 23,365,919 | 931,919 | |
| 事業費支出計 | 54,239,000 | 56,896,410 | 2,657,410 | |
| 管理費支出 | | | | |
| 人件費 | 8,496,000 | 8,081,101 | 414,899 | |
| 旅費交通費 | 960,000 | 735,796 | 224,204 | |
| 事務所賃借料 | 2,500,000 | 2,610,373 | 110,373 | |
| 事務諸費 | 4,350,000 | 2,892,716 | 1,457,284 | |
| 雑費 | 750,000 | 507,569 | 242,431 | |
| 法人税等支出 | 70,000 | 70,000 | 0 | |

| 科 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 差 異 | 備 考 |
|------------------|------------|------------|-----------|-----|
| 管理費支出計 | 17,126,000 | 14,897,555 | 2,228,445 | |
| 事業活動支出計 | 71,365,000 | 71,793,965 | 428,965 | |
| 事業活動収支差額 | 4,480,000 | 640,985 | 3,839,015 | |
| II. 投資活動収支の部 | | | | |
| 1. 投資活動収入 | | | | |
| 事業準備引当預金取崩収入 | 1,500,000 | 0 | 1,500,000 | |
| 年会開催費引当預金取崩収入 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 | |
| 普及書出版引当預金取崩収入 | 1,200,000 | 0 | 1,200,000 | |
| 構造地質部会特別引当預金取崩収入 | 780,000 | 300,000 | 480,000 | |
| 投資活動収入計 | 4,480,000 | 300,000 | 4,180,000 | |
| 2. 投資活動支出 | | | | |
| 退職手当引当預金繰入支出 | 0 | 2,017 | 2,017 | |
| 年会開催補助費引当預金繰入支出 | 0 | 1,222 | 1,222 | |
| 普及書出版引当預金繰入支出 | 0 | 235,615 | 235,615 | |
| 総目録刊行引当預金繰入支出 | 0 | 527 | 527 | |
| 研究奨励引当預金繰入支出 | 0 | 368 | 368 | |
| 投資活動支出計 | 0 | 239,749 | 239,749 | |
| 投資活動収支差額 | 4,480,000 | 60,251 | 4,419,749 | |
| III. 財務活動収支の部 | | | | |
| 1. 財務活動収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 2. 財務活動支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 財務活動収支差額 | 0 | 0 | 0 | |
| 当期収支差額 | 0 | 580,734 | 580,734 | |
| 前期繰越収支差額 | 25,790,228 | 25,790,228 | 0 | |
| 次期繰越収支差額 | 25,790,228 | 25,209,494 | 580,734 | |

(注) 1. 各事業ごとの「事業管理費」を、抜き出して一括して表示している。

正味財産増減計算書

〔 自 2012年 4月 1日
至 2013年 3月 31日 〕

(単位：円)

| 科 目 | 当 年 度 | 前 年 度 | 増 減 | 備 考 |
|---------------|------------|------------|-------------|-----|
| I. 一般正味財産増減の部 | | | | |
| 1. 経常増減の部 | | | | |
| (1) 経常収益 | | | | |
| 基本財産運用収入 | 7,190 | 11,218 | △ 4,028 | |
| 特定資産運用収入 | 6,523 | 11,017 | △ 4,494 | |
| 会費収入 | 44,740,350 | 45,156,850 | △ 416,500 | |
| 事業収入 | | | | |
| 出版事業収入 | 13,601,418 | 10,564,605 | 3,036,813 | |
| 年会開催事業収入 | 8,776,632 | 10,447,093 | △ 1,670,461 | |
| 普及事業収入 | 488,905 | 242,500 | 246,405 | |
| 支部・部会等活動事業収入 | 845,550 | 136,000 | 709,550 | |
| 受託事業収入 | 0 | 975,282 | △ 975,282 | |
| 地質調査研修事業収入 | 720,000 | 0 | 720,000 | |
| 事業収入計 | 24,432,505 | 22,365,480 | 2,067,025 | |
| 補助金・寄付金等収入 | 1,736,882 | 1,991,830 | △ 254,948 | |
| 雑収入 | 229,530 | 506,232 | △ 276,702 | |
| 経常収益計 | 71,152,980 | 70,042,627 | 1,110,353 | |
| (2) 経常費用 | | | | |
| 事業費 | | | | |
| 出版事業費 | 19,703,620 | 19,499,095 | 204,525 | |
| 年会開催事業費 | 9,411,541 | 10,421,351 | △ 1,009,810 | |
| 普及事業費 | 1,204,994 | 1,396,170 | △ 191,176 | |
| 支部・部会等活動事業費 | 1,946,811 | 790,474 | 1,156,337 | |
| 研究奨励事業費 | 456,240 | 2,060,620 | △ 1,604,380 | |
| 特別事業費 | 299,950 | 1,769,870 | △ 1,469,920 | |
| 受託事業費 | 0 | 706,030 | △ 706,030 | |
| 地質調査研修事業費 | 507,335 | 0 | 507,335 | |
| 事業管理費 | 23,365,919 | 20,598,885 | 2,767,034 | |
| 事業費計 | 56,896,410 | 57,242,495 | △ 346,085 | |
| 管理費 | | | | |
| 人件費 | 8,081,101 | 6,760,054 | 1,321,047 | |
| 旅費交通費 | 735,796 | 774,836 | △ 39,040 | |
| 事務所賃借料 | 2,610,373 | 2,629,220 | △ 18,847 | |
| 事務諸費 | 2,892,716 | 4,519,847 | △ 1,627,131 | |
| 雑費 | 577,569 | 482,333 | 95,236 | |
| 管理費計 | 14,897,555 | 15,166,290 | △ 268,735 | |

| 科 目 | 当 年 度 | 前 年 度 | 増 減 | 備 考 |
|----------------|------------|------------|-------------|-----|
| 経常費用計 | 71,793,965 | 72,408,785 | △ 614,820 | |
| 当期経常増減額 | △ 640,985 | 2,366,158 | 1,725,173 | |
| 2. 経常外増減の部 | | | | |
| (1) 経常外収益 | | | | |
| 事業準備引当金取崩額 | 0 | 2,700,000 | △ 2,700,000 | |
| 研究奨励引当金取崩額 | 0 | 700,000 | △ 700,000 | |
| 構造地質部会特別引当金取崩額 | 300,000 | 160,000 | 140,000 | |
| 経常外収益計 | 300,000 | 3,560,000 | △ 3,260,000 | |
| (2) 経常外費用 | | | | |
| 退職手当引当金繰入額 | 2,017 | 3,122 | △ 1,105 | |
| 年会開催補助費引当金繰入額 | 1,222 | 1,467 | △ 245 | |
| 普及書出版引当金繰入額 | 235,615 | 489,353 | △ 253,738 | |
| 総目録刊行引当金繰入額 | 527 | 634 | △ 107 | |
| 研究奨励引当金繰入額 | 368 | 695 | △ 327 | |
| 経常外費用計 | 239,749 | 495,271 | △ 255,522 | |
| 当期経常外増減額 | 60,251 | 3,064,729 | △ 3,004,478 | |
| 当期一般正味財産増減額 | △ 580,734 | 698,571 | △ 1,279,305 | |
| 一般正味財産期首残高 | 57,790,228 | 57,091,657 | 698,571 | |
| 一般正味財産期末残高 | 57,209,494 | 57,790,228 | △ 580,734 | |
| II. 指定正味財産増減の部 | | | | |
| 当期指定正味財産増減額 | 0 | 0 | 0 | |
| 指定正味財産期首残高 | 0 | 0 | 0 | |
| 指定正味財産期末残高 | 0 | 0 | 0 | |
| III. 正味財産期末残高 | 57,209,494 | 57,790,228 | △ 580,734 | |

貸借対照表

2013年3月31日現在

| 科 目 | (単位:円) | | 増 減 |
|-------------------|-------------|-------------|-------------|
| | 当年度 | 前年度 | |
| I 資産の部 | | | |
| 1. 流動資産 | | | |
| 現金 | 189,187 | 153,909 | 35,278 |
| 預貯金 | 57,092,869 | 56,711,246 | 381,623 |
| 未収金 | 158,000 | 2,436,303 | △ 2,278,303 |
| 立替金 | 0 | 1,750 | △ 1,750 |
| 仮払金 | 188,561 | 327,653 | △ 139,092 |
| 流動資産合計 | 57,628,617 | 59,630,861 | △ 2,002,244 |
| 2. 固定資産 | | | |
| (1) 基本財産 | | | |
| 預 金 | 30,000,000 | 30,000,000 | 0 |
| 基本財産合計 | 30,000,000 | 30,000,000 | 0 |
| (2) その他の固定資産 | | | |
| 敷金・保証金 | 2,000,000 | 2,000,000 | 0 |
| 特定資産 | 32,547,275 | 32,607,526 | △ 60,251 |
| 事業準備引当預金 | 7,600,000 | 7,600,000 | 0 |
| 退職手当引当預金 | 8,667,859 | 8,665,842 | 2,017 |
| 年会開催補助費引当預金 | 6,112,496 | 6,111,274 | 1,222 |
| 普及書出版引当預金 | 5,200,841 | 4,965,226 | 235,615 |
| 総目録刊行引当預金 | 2,640,568 | 2,640,041 | 527 |
| 研究奨励引当預金 | 1,845,511 | 1,845,143 | 368 |
| 構造地質部会特別引当預金 | 480,000 | 780,000 | △ 300,000 |
| その他の固定資産合計 | 34,547,275 | 34,607,526 | △ 60,251 |
| 固定資産合計 | 64,547,275 | 64,607,526 | △ 60,251 |
| 資産合計 | 122,175,892 | 124,238,387 | △ 2,062,495 |
| II 負債の部 | | | |
| 1. 流動負債 | | | |
| 預り金 | 419,623 | 1,453,228 | △ 1,033,605 |
| 未払金 | 0 | 564,265 | △ 564,265 |
| 前受金 | 31,999,500 | 31,823,140 | 176,360 |
| 流動負債合計 | 32,419,123 | 33,840,633 | △ 1,421,510 |
| 2. 固定負債 | | | |
| 引当金 | | | |
| 事業準備引当金 | 7,600,000 | 7,600,000 | 0 |
| 退職手当引当金 | 8,667,859 | 8,665,842 | 2,017 |
| 年会開催補助費引当金 | 6,112,496 | 6,111,274 | 1,222 |
| 普及書出版引当金 | 5,200,841 | 4,965,226 | 235,615 |
| 総目録刊行引当金 | 2,640,568 | 2,640,041 | 527 |
| 研究奨励引当金 | 1,845,511 | 1,845,143 | 368 |
| 構造地質部会特別引当金 | 480,000 | 780,000 | △ 300,000 |
| 固定負債合計 | 32,547,275 | 32,607,526 | △ 60,251 |
| 負債合計 | 64,966,398 | 66,448,159 | △ 1,481,761 |
| III 正味財産の部 | | | |
| 1. 指定正味財産 | 0 | 0 | 0 |
| 2. 一般正味財産 | 57,209,494 | 57,790,228 | △ 580,734 |
| 正味財産合計 | 57,209,494 | 57,790,228 | △ 580,734 |
| 負債及び正味財産合計 | 122,175,892 | 124,238,387 | △ 2,062,495 |

財産目録

2013年3月31日現在

| 科 目 | (単位:円) | |
|---|---------------|---|
| | 金 額 | 額 |
| I 資産の部 | | |
| 1. 流動資産 | | |
| 現金 (現金:160,530円、切手38,657円) | 189,187 | |
| 預貯金 | 57,092,869 | |
| 三井住友銀行神田駅前支店(711424)(普通) | 29,934,681 | |
| みずほ銀行神田駅前2229416(普通) | 17,813,463 | |
| 三菱UFJ銀行神田駅前1134781(普通) | 698,358 | |
| ゆうちょ銀行振替貯金8-28067 | 5,201,076 | |
| ゆうちょ銀行62073562(普通) | 3,445,291 | |
| 未収金(オンラインアンケート購読料未収分) | 158,000 | |
| 立替金 | 0 | |
| 仮払金(労働保険料2012年度概算払い) | 188,561 | |
| 流動資産合計 | 57,628,617 | |
| 2. 固定資産 | | |
| (1) 基本財産 | | |
| 預 金 (みずほ銀行神田駅前支店(定期)6558120-1,2,5,6) | 30,000,000 | |
| 基本財産合計 | 30,000,000 | |
| (2) その他の固定資産 | | |
| 敷金・保証金(井桁ビル預け) | 2,000,000 | |
| 特定資産 | 7,600,000 | |
| 事業準備引当預金 (みずほ銀行神田駅前支店(定期)6558120-9) | (32,547,275) | |
| 退職手当引当預金 (三菱UFJ銀行神田駅前支店(定期)0022615-1,6,7) | 8,667,859 | |
| 年会開催補助費引当預金 (三菱UFJ銀行神田駅前支店(定期)0022615-2) | 6,112,496 | |
| 普及書出版引当預金 (三菱UFJ銀行神田駅前支店(定期)0022615-3,9) | 5,200,841 | |
| 総目録刊行引当預金 (三菱UFJ銀行神田駅前支店(定期)0022615-4) | 2,640,568 | |
| 研究奨励引当預金 (三菱UFJ銀行神田駅前支店(定期)0022615-4) | 1,845,511 | |
| 構造地質部会特別引当預金 (みずほ銀行神田駅前支店(定期)6558120-10) | 480,000 | |
| その他の固定資産合計 | 34,547,275 | |
| 固定資産合計 | 64,547,275 | |
| 資産合計 | 122,175,892 | |
| II 負債の部 | | |
| 1. 流動負債 | | |
| 預り金(社保料2カ月分) | 419,623 | |
| 未払金 | 0 | |
| 前受金(2013年4月以降の会費) | 31,999,500 | |
| 流動負債合計 | 32,419,123 | |
| 2. 固定負債 | | |
| 引当金 | | |
| 事業準備引当金 | 7,600,000 | |
| 退職手当引当金 | 8,667,859 | |
| 年会開催補助費引当金 | 6,112,496 | |
| 普及書出版引当金 | 5,200,841 | |
| 総目録刊行引当金 | 2,640,568 | |
| 研究奨励引当金 | 1,845,511 | |
| 構造地質部会特別引当金 | 480,000 | |
| 固定負債合計 | 32,547,275 | |
| 負債合計 | 64,966,398 | |
| III 正味財産の部 | | |
| 1. 指定正味財産 | 0 | |
| 2. 一般正味財産 | 57,209,494 | |
| 正味財産合計 | 57,209,494 | |
| 負債及び正味財産合計 | 122,175,892 | |

計算書類に対する注記(2012年度)

1. 重要な会計方針

公益法人会計基準(平成16年10月)を採用している。

1) 引当金の計上について

- ・事業準備引当金: 将来的な事業、前年度未完事業、会員名簿出版、大規模災害調査・研究などのために引当。
- ・年会開催補助費引当金: 年会事業収支の余剰金を不足が生じた場合に備え引当。
- ・退職手当引当金: 期末要支給額を見込んで引当。
- ・普及書出版引当金: 地質学会名で出版社から刊行した出版物の著者からの印税寄付金を以後の普及書出版に備え引当。
- ・総目録刊行費引当金: 目録刊行に備えて引当。
- ・研究奨励引当金: 会員の研究奨励のために会員からの寄付金および必要に応じて引当。
- ・構造地質部会特別引当金: 旧構造地質研究会の残余金を暫定的に引当。

2) 消費税等の会計処理
税込方式によっている。

2. 基本財産の残高状況は次のとおりである。

| 科目 | 期首残高 | 当期増加額 | 当期減少額 | 当期末残高 |
|----------|------------|-------|-------|------------|
| 預金 | 30,000,000 | 0 | 0 | 30,000,000 |
| 合計(基本財産) | 30,000,000 | 0 | 0 | 30,000,000 |

収支計算書に対する注記(2012年度)

1. 資金の範囲について

資金の範囲には現金、預金、未収金、立替金、仮払金、預り金、未払金、前受金を含める。期末残高は下記に示すとおりである。

2. 次期繰り越し収支差額の内容は、次のとおりである。

| 科目 | 前期末残高 | 当期末残高 |
|-----------|------------|------------|
| 現金(切手残高含) | 153,909 | 189,187 |
| 預金 | 56,711,246 | 57,092,869 |
| 未収金 | 2,436,303 | 158,000 |
| 立替金 | 1,750 | 0 |
| 仮払金 | 327,653 | 188,561 |
| 合計 | 59,630,861 | 57,628,617 |
| 預り金 | 1,453,228 | 419,623 |
| 未払金 | 564,265 | 0 |
| 前受金 | 31,823,140 | 31,999,500 |
| 合計 | 33,840,633 | 32,419,123 |
| 次期繰越収支差額 | 25,790,228 | 25,209,494 |

2012年度一般社団法人日本地質学会会計監査報告書

一般社団法人日本地質学会

会長 石渡 明 殿



監事

監事

2012年度(2012年4月1日～2013年3月31日)、一般社団法人日本地質学会会計について、諸帳簿、収支決算書、預金通帳および関係書類に基づき監査した結果、その内容が適正かつ経理事務が正確であることを証明します。

1. 監査期日

平成25年 5月15日

2. 監査対象

2012年度一般社団法人日本地質学会会計

収 支 予 算 書

〔自 2013年 4月 1日
至 2014年 3月 31日〕

| 科 目 | 予 算 額 | 前年度予算額 | 増 減 | 備 考 |
|--------------|------------|------------|-------------|------|
| (単位：円) | | | | |
| I. 事業活動収支の部 | | | | |
| 1. 事業活動収入 | | | | |
| 基本財産運用収入 | 10,000 | 20,000 | △ 10,000 | |
| 特定資産運用収入 | 10,000 | 14,000 | △ 4,000 | |
| 会費収入 | 44,020,000 | 43,970,000 | △ 50,000 | |
| 事業収入 | | | | |
| 出版事業収入 | 10,050,000 | 9,130,000 | △ 920,000 | |
| 年会開催事業収入 | 9,250,000 | 9,835,000 | △ 585,000 | |
| 普及事業収入 | 600,000 | 200,000 | △ 400,000 | |
| 支部・部会等活動事業収入 | 800,000 | 270,000 | △ 530,000 | |
| 受託事業収入 | 0 | 1,000,000 | △ 1,000,000 | |
| 地質調査研修事業収入 | 1,200,000 | 780,000 | △ 420,000 | |
| 事業収入計 | 21,900,000 | 21,215,000 | △ 685,000 | |
| 補助金・寄付金等収入 | 1,550,000 | 1,300,000 | △ 250,000 | |
| 雑収入 | 240,000 | 366,000 | △ 126,000 | |
| 事業活動収入計 | 67,730,000 | 66,885,000 | △ 845,000 | |
| 2. 事業活動支出 | | | | |
| 事業費支出 | | | | |
| 出版事業費 | 17,150,000 | 16,250,000 | △ 900,000 | |
| 年会開催事業費 | 9,250,000 | 9,385,000 | △ 135,000 | |
| 普及事業費 | 1,555,000 | 1,340,000 | △ 215,000 | |
| 支部・部会等活動事業費 | 1,760,000 | 1,900,000 | △ 140,000 | |
| 研究奨励事業費 | 600,000 | 550,000 | △ 50,000 | |
| 特別事業費 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | |
| 受託事業費 | 0 | 710,000 | △ 710,000 | |
| 地質調査研修事業費支出 | 1,000,000 | 670,000 | △ 330,000 | |
| 事業管理費 | 22,561,000 | 22,434,000 | △ 127,000 | 注) 1 |
| 事業費支出計 | 54,876,000 | 54,239,000 | △ 637,000 | |
| 管理費支出 | | | | |
| 人件費 | 8,544,000 | 8,496,000 | △ 48,000 | |
| 旅費交通費 | 900,000 | 960,000 | △ 60,000 | |
| 事務所賃借料 | 2,375,000 | 2,500,000 | △ 125,000 | |
| 事務諸費 | 5,035,000 | 4,350,000 | △ 685,000 | |
| 雑費 | 710,000 | 750,000 | △ 40,000 | |
| 法人税等支出 | 70,000 | 70,000 | 0 | |

| 科 目 | 予 算 額 | 前年度予算額 | 増 減 | 備 考 |
|--------------------|------------|------------|-------------|-----|
| 管理費支出計 | 17,634,000 | 17,126,000 | △ 508,000 | |
| 事業活動支出計 | 72,510,000 | 71,365,000 | △ 1,145,000 | |
| △ | 4,780,000 | 4,480,000 | △ 300,000 | |
| II. 投資活動収支の部 | | | | |
| 1. 投資活動収入 | | | | |
| 事業準備引当預金取崩収入 | 1,500,000 | 1,500,000 | 0 | |
| 年会開催費引当預金取崩収入 | 1,500,000 | 1,000,000 | △ 500,000 | |
| 普及書出版引当預金取崩収入 | 1,000,000 | 1,200,000 | △ 200,000 | |
| 125周年記念事業引当預金取崩収入* | 300,000 | 0 | △ 300,000 | |
| 構造地質部会特別引当預金取崩収入 | 480,000 | 780,000 | △ 300,000 | |
| 投資活動収入計 | 4,780,000 | 4,480,000 | △ 300,000 | |
| 2. 投資活動支出 | | | | |
| 退職手当引当預金繰入支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 年会開催補助費引当預金繰入支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 普及書出版引当預金繰入支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 125周年記念事業引当預金繰入支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 研究奨励引当預金繰入支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 投資活動支出計 | 0 | 0 | 0 | |
| 投資活動収支差額 | 4,780,000 | 4,480,000 | △ 300,000 | |
| III. 財務活動収支の部 | | | | |
| 1. 財務活動収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 2. 財務活動支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 財務活動収支差額 | 0 | 0 | 0 | |
| 当期収支差額 | 0 | 0 | 0 | |
| 前期繰越収支差額 | 25,209,494 | 25,790,228 | △ 580,734 | |
| 次期繰越収支差額 | 25,209,494 | 25,790,228 | △ 580,734 | |

(注) 1. 各事業ごとの「事業管理費」を、抜き出して一括して表示している。
* 旧総目録引当金の名目変更が総会で承認され、125周年記念事業引当金とする。

2013年度事業計画基本方針

2011年3月11日に発生した東日本大震災は日本社会に深刻な影響を与えた。被災地はいまだ復興途上にあるが、国の政治の混乱もあって再建はなかなか進まない。そのような状況の2012年度にあって、本学会は会員各位と各支部・部会などの努力により、以下に要約するような成果をあげることができた。

東日本大震災に関しては、2012年度事業計画にも震災復興にかかわる事業費を計上し、被災地域の博物館や研究機関への支援、震災に関する研究の促進に取り組んだ。大震災以後の地質学への社会的関心の高まりとともに、福島第一原子力発電所の事故を踏まえて新たに発足した原子力規制委員会から、本学会など関連4学会に対して、全国各地の発電所敷地内の活断層を評価する有識者会議の委員を推薦するよう依頼があり、本学会が推薦した委員は国民注視の中で現地調査などの職務を行っている。また、日本学術会議が出した報告書「高レベル放射性廃棄物の処分について」に対し、応用地質学会と共同で、「これまで我が国が培ってきた処分技術の長期的な継承・改良とその重要性の社会的共有化が重要」とするコメントを公表した。

大阪での学術大会は、「都市から発信する地質学」のテーマのもとに、予想される南海トラフ巨大地震・津波関連の一般公開シンポジウム、市民講演会、市民に向けたアウトリーチセッション（ポスター展示）など、社会的関心に応えるとともに地質学の意義や役割を提起する場となり、本学会が共催する地質情報展も盛況で、悪天候で中止になった巡検があったものの、大会は成功だった。本学会がサポートし英国地質学会が発行する「Geology of Japan」の執筆に向けて、英語での国際ワークショップが行われた。

地質学雑誌は本学会の根幹をなす月刊学術誌であり、今年の第119巻もほぼ順調に発行されている。最近では多彩な特集号や総説が続々と掲載されており、特に3号にわたって組まれた地質学雑誌の東日本大震災特集は幅広い分野からの論文を集め、非常にインパクトのあるものとなった。Island Arcも順調に発行され、2013年1号から完全電子化された（紙媒体廃止）。また、同誌の飛躍的發展をめざして新名称の公募を行い、現在選考中である。

普及活動に関しては、ジオパーク活動がさらに前進し、最初の認定から4年で国内の世界ジオパークは5地域、国内ジオパーク総数は25となり、着実に増加しつつある。2012年5月には第5回ジオパーク国際ユネスコ会議が島原半島ジオパークで開催され、ジオパークの国際化に弾みがついた。3会共催の地震・火山子どもサマースクールも糸魚川ジオパークで開催された。地学オリンピックも参加者が着実に増加しており、今年度も世界大会で金メダルを獲得した。リーフレットの超

年代表や電子書籍などの新しい企画が着実に進行している。書籍出版では、フィールドジオロジー・シリーズが完結し、地方地質誌も東北・四国を残すのみとなった。また、地質の日の取り組みや惑星地球フォトコンテストが定着し、「友の会」や若手会員を主な対象とした情報交換サービス（SNS）「ちーとも」の利用が増加しつつある。本学会が一般に販売する広報誌「ジオルジュ」が創刊され、第2号も発行されて、高い評価を得ている地質学的に重要な露頭の保全にも取り組み、法面工事の仕様を変更させるなどの成果があった。

国内の関連業界や社会への対応としては、まず外部から本学会への業務の依頼や委託に対応できる体制が確立し、取り組みが充実しつつある。また、地質情報の共有化に関する学術会議の提言を支持するコメントを発表した。

地学教育に関しては昨年度からの新指導要領実施に伴い、地学教員採用が増加しつつある。

国際対応としては、大阪大会に大韓地質学会の兪剛民会長をお迎えして同学会との学術交流協定をさらに5年間延長した。タイ国地質学会との学術交流協定も更新した。イタリアのラクイラ地震に関連する裁判で、地質学者を含む科学者らに過失致死罪で禁錮刑と罰金を科す判決が出たことに対して、これを憂慮する旨の声明を世界に向けて発表した。

2013年度は以上の成果を踏まえて、特に以下に力点を置く。

1. 東日本大震災を踏まえた防災・減災に対する取り組み
 - 1) 地質学的観点からの調査・研究の推進
 - 2) 災害に関する地質学的知識や情報の提供・発信
 - 3) 自然災害に関する地学教育の推進
2. 仙台における学術大会を成功させるとともに、大規模自然災害や地学教育・アウトリーチなど、関連学協会との連携・協力を促進する場とする。国際地質科学連合(IUGS)などと協力し、仙台で別途開催される大規模自然災害に関する国際シンポジウムを共催する。
3. 日本地質学の成果を世界に向けて効果的に発信するための書籍の刊行と英語ホームページの充実。完全電子化されたIsland Arcのさらなる国際化と質の向上をめざす。東アジアなどの各国の学会との連携・交流強化を図る。
4. 2012年6月に改正された地質図の記号等に関する日本標準規格(JIS A0204)、ベクトル数値地質図に関するJIS A0205ならびに国際標準の整備に対応して、それらの普及と地層名登録の仕組みや日本語の地質学用語標準の整備を図る。
5. 地学教員および地学の科目を設置する学

校の大幅増を目指し、関係機関への要望活動をおこなうとともに、地学教材の提供など、地学教員への支援を強化する。また、地学オリンピックへの支援を強める。さらに、日本学術会議等が検討している大学における地球科学教育の参照基準の策定に、積極的に関与する。

6. 一般人の地学リテラシー向上のため、本学会のホームページ(HP)、ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス(SNS)「ちーとも」、広報誌「ジオルジュ」、リーフレット、フォトコンテスト、講演会などを通じ、社会への情報発信を強化する。また、ジオパーク運動への支援強化、重要な露頭の保全などに取り組む。
7. JABEEを含めた地質技術者教育の充実に向けて、関連学会と協力・共同した取組を強化する。本年度には、支部や他学会・機関と連携し、国内での地質技術者にむけた研修事業等を企画、実施する。
8. 学会の組織活動を全般的に強化する。支部や専門部会の活動の活発化、理事の役割の強化、会員サービスの強化(就職支援、地質技術者の継続的な専門教育(CPD)など)を図る。若手の人材育成とシニア人材の活躍の場を広げる。
9. 5年後の本学会設立125周年に向け、記念事業の計画を策定するなど、準備を本格的に始める。
10. 本学会の新しい中期ビジョン策定に向けて、委員会を設け議論を開始する。
11. 新会員の積極的勧誘、会費納入の督促、学会出版物の販売促進などにより、本学会の財政基盤を強化する。

以上